

発言No. 5

受付No. 7

平成 26年8月26日

9時 19分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 11 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育委員会委員長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 人口減少社会における交流人口拡大策について

少子化による人口減少は、国内のあらゆる産業にとって避けて通れない課題であります。浜田市の場合でも、人口速報値（4月1日現在）によると昨年1年間でお亡くなりになった方が745人で初めて年間で700人を超え、人口も58,000人をきって57,778人となり、平成17年合併時(62,841人)から5,063人も減少しています。

人口減少も財政のリスク要因で税収増が見込みにくくなるのに加え、人口は交付税の算定基準の一つになっており、人口一人減ると交付税が当市の場合7万5千円減と聞いております。また、2008年の総務省の「家計調査」によると、定住人口一人当たりの年間消費金額は全国平均で124万円。ということは、(そのまち以外での消費があるとしても)昨年でおよそ9億2千万円の消費が減った事になります。つまり人口減少にともない地域経済が大きく縮小・後退しています。そこで一つの考え方として、2008年の旅行・観光消費動向調査によると1人の国内旅行1回当たりの消費額を計算すると、宿泊旅行で5万2,000円、日帰り旅行で1万6,000円と報告されていて、これらの数字をベースに減少する定住人口を交流人口で賄いながら地域内の消費(経済)を維持する事を考えた場合、日本人旅行者の宿泊旅行者であれば24人、日帰り旅行者だと78人、そして訪日外国人だと7人が来訪すれば、人口が一人減った分の消費(経済)を埋め合わせる事が可能になると言われ、これが「交流人口の拡大による経済」の収支となり、どこもが「行こうよ(発地)型」から「おいでよ(着地)型」の観光事業振興に力をいれて取り組んでいるところではないでしょうか。集客交流事業における商品(サービス)は、必ずしも旅行商品というカテゴリーに限るものではなく、ツーリズム、U・J・Iターン、2地域居住、週末農園、移住など多種多様な形態で地域に人を招き入れる方法を考える事が重要で、「1回だけ来てくれる1,000人と、10回来てくれる100人」「2回目来るかどうか分からない日帰り客と、週末ごとに訪れる何組かのリピーター」「平均消費額1,000円の日帰り客1,000人と、移住者1人」といったふうに、考え方や発想を広げながら地域の实情にあった判断をしていく事が必要だと思います。そのためには、今まで

のまちの来訪者について「何となくは分かるけど、正確な数字は分からない」ようでは、ピーポイントで政策の計画・実施はできないと思います。

(1) まちの現状を分析・評価することについて

- ① 成熟した消費社会となった現代社会では、モノやサービスが市場にあふれていて「いいものをつくれれば売れる」「安ければ売れる」とはいかなくなりました。つまり、地域の側で、一方的に「何が売りたいのか」を考えるだけでなく、来訪者は「何が欲しいのか」「なぜ欲しいのか」を考えることが、最近では集客交流事業の成功へ向けた第一歩だと、多くの専門家も言われています。そのためには、来訪者についての客観的な事実を把握し分析する事が必要になると思いますが、今までどのような数字を集めて分析、評価されてきたのか、応えやすい観光資源「石見神楽や畳ヶ浦」などの例で分析・評価をお伺いします。
- ② 浜田と言えば「〇〇です」といったぐらいに、はたして大人から子供まで、市内の人、県内外の人、どんなイメージを浜田に持っているのでしょうか。イメージは非常に大事であり観光戦略の大きな礎にもなるはずです。私はこの盆で帰省した家族や親族、観光客、市内の人にある例を出して聞いてみました。私からみる県内8市のイメージは ①安来市（安来節とドジョウ掬い）②松江市（夕日に映える宍道湖）③出雲市（神々の国出雲大社）④雲南市（たたら製鉄の里）⑤大田市（世界遺産の石見銀山）⑥江津市（豪流、江の川）⑦益田市（清流日本一、高津川）⑧では浜田市は何が浮かびますか、どんなイメージが返ってきたでしょうか、市長のイメージはどうでしょうか、昔と今、同じでしょうか、変わっているでしょうか、ご所見をお伺いします。

(2) ふるさとをキーワードとした交流人口拡大に結びつける取組について

- ① 人口が少ない地方と都市部の税収格差を埋めるため（2008年スタート）地方の自治体に寄附する事で、お礼としてその土地の特産品などを貰う事ができる「ふるさと納税」は、今や、より多くの寄附をしてもらうため豪華な特典を掲げ、しのぎを削っている状態であります。その中でも浜田市が全国的に知名度が低い中で、北海道から沖縄まで9000件以上、一億円以上の寄附を頂いており、注目度や寄附額が全国上位で多数のメディアに取り上げられた事は、確かな知名度UPであり、大きな宣伝効果でもあります。担当課は非常に努力されていると評価するべきものだと思います。8月13日の地方紙「おかえりなさい！ふるさと島根へ」ふるさとへの寄付（ふるさと納税）のご案内で、県下8市の窓口の担当課がほとんど違う課で担当している事に驚きました。当市では機構改革で4月より財政課が担当していますが、浜田市だけ財政課である何か特別な思いがあるのかお伺いします。

- ② 寄附していただいた人に、寄附してもらった効果を目にみえるようにすることは、寄附を受けた自治体の責任だと思うが、それをどう伝えて表していくのかお伺いします。
- ③ 国は「ふるさと納税制度」を2015年度から拡充する方針を固めたと報道が先ごろあったが、どこがどう拡充されるのかお伺いします。
- ④ 継続の考え方として、この制度は財源確保ということから、一つ必要なことでもありこの制度は大いに活用すべきであると思っております。入口は特産品目当であっても、この制度を活用して、新たな特産品を育てるヒントや来訪してもらおう仕掛けづくりができると思うが、最終的な着地点をどこにおいておられるのか、今後どう取組んでいこうとおられるのかお伺いします。
- ⑤ ある町内の盆踊りに出かけ「年1回しか帰らない娘家族は、これから30年たっても30回しか会われないのかな」とポツリつぶやいた人。数字に置き換えるといかにも少なく感じました。なにも来訪してくれる人たちではなくても、一番身近な浜田を離れて暮らしている親族の方に年1回しか帰省していない人にはプラス1（ワン）、2回帰省している人でもプラス1（ワン）と言った「ふるさとお帰りプラス1（ワン）運動」を考えて全市民に働きかけることはできないものでしょうか。そうすれば、父さん・母さん、じいちゃん・ばあちゃんは子どもや孫のために、お金を使ってくれて経済効果もあがると思うのですが、この提言についてお伺いします。
- ⑥ 浜田には県立大学があり全国から多くの学生がきています。学生さんにとってはこの地は青春時代の一種の「ふるさと」だと思います。その「ふるさと」に魅力を感じてもらうために学生さんたちだけでなく、子どもが暮らすまちのことを親御さんも知りたいと思うはずで。入学式には誰が来ますでしょうか。入学式に出席した親御さんを対象にして、まちを案内するプログラムをつくるべきであると思うし、大学と連携して在学中には、せめて1回以上この浜田に来てもらう仕組み作りを考えるべきだと思いますがご所見をお伺いします。

(3) 自転車を活かした交流人口拡大 について

今、全国的に脚光を浴びている自転車。普段、自転車に乗り慣れている方でも、乗らない方でも、子どもから大人も関係なく、最も身近な乗り物である自転車を楽しむまちづくりが大変注目されています。全国では高速道路開通に伴い交通量が減った県道、国道など自転車を活かした観光振興の取組や北海道ではサイクリングツーリズムが考えられています。大田市や益田市は先進地としてすでに、競技や楽しむためのサイクリングイベントを実施されています。

- ① 7月の初め、ある益田の団体の紹介で、日本でスポーツサイクリングやロードサイクリングのトップである浅田 顕氏を迎え益田市がいま行っている、「益田I・NA・KAライド」的なものが、浜田市でできないものかと、自動車で一日試走していただきました。漁港よりマリン大橋経由して瀬戸ヶ島を周遊するコースでの設定は景色、車の交通量、道路面の整備等はOKをいただいた感触でしたが、同行された行政の担当課としての感想と計画・実施するための問題点をお伺いします。
- ② 私もエコの乗物と健康のため、自転車を愛用している一人として、車では味わえない心地よい風と匂いを感じながら時間があれば、サイクリングに出かけています。そこで感じた事は、以外にもサイクリングロードとして適しているにもかかわらず、自転車用の案内看板や標識、安全走行を確保するための車道幅の路面塗装。駐輪場（ラックスタンド）の整備がほとんどされていません。ぜひ、できることから整備して自然豊かなこの浜田の地に全国、外国のサイクリスト（チャリダー）を呼ぶことが、新たな観光振興になると思われますがご所見お伺いします。

2 再生可能エネルギーについて

(1) 当市の現状とこれからの取組について

- ① 新聞を開けば少し前は、原発稼働ゼロの暑い夏を乗り切れるかとの記事、それと同様に再生可能エネルギー（特にメガソーラ）計画や着工が取り上げられる日が多かった。7月の下旬、浜田のゴルフ場跡地にメガソーラーを設置するとの事で、同僚議員と起工式に出席しました。そこで、元国会議員で第93代内閣総理大臣H氏が日本海を眼下に見ながら「メガソーラー、風力発電、それに地熱（温泉）も浜田はある。この地が資源エネルギーの宝庫になる事は間違いない」といわれた。視察などで車や列車から見る風景は屋根の上にソーラーパネル、広い空地はメガソーラーシステムが目立ちます。特に九州ではこれまで価値がつかなかった遊休地がメガソーラーに活用されてきているし、新築住宅では0エネルギーハウスを宣伝している。そこで当市における（太陽光発電、風力発電、地熱発電、木質バイオマスなど）再生可能エネルギーの現状と取組についてお伺いします。